

歴史的事象の意味を考える力を育てる指導の工夫
—歴史キーワードを見つけ、
「時空をこえた手紙」を書く活動を通して—

研究構想図

長期研修員 大塚 努

歴史的事象の意味を考えることができる児童

考え・まとめる

歴史的事象の意味を
考える

知識の再構成
児童なりの価値判断

追究する

歴史的事象の特徴を
捉える

比較・関連・総合

歴史キーワードを
見付け、考える

つかむ

単元を貫く学習課題
をつかむ

意欲

見通し

○歴史上の人物へ返事の手紙を書く



時空をこえた手紙

- 届いた手紙が学習の流れを作る
- 歴史上の人物を差出人に選定
- 手紙の記述が学習に有効に働く

○歴史上の人物から
問いかけの手紙
を受け取る



児童の実態 歴史的事象の意味を考える力が弱い

- ・関連付けて考える力が不十分
- ・自分の考えが持てない



時空をこえた手紙を受け取る→単元を貫く学習課題をつかむ

つかむ



日本は開国して変わるべきだったのだろうか

予想

学習計画

開国○

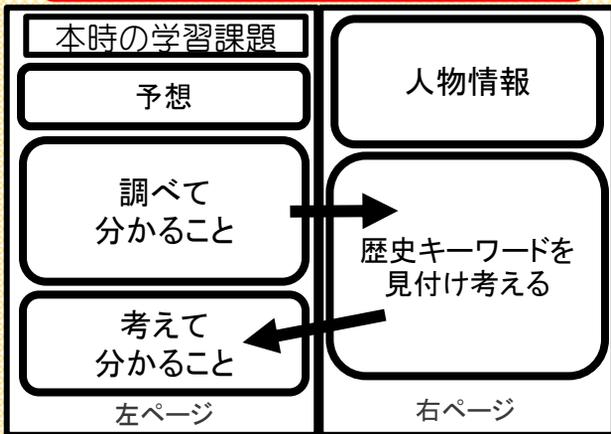
開国×

日本はどう変わったのか

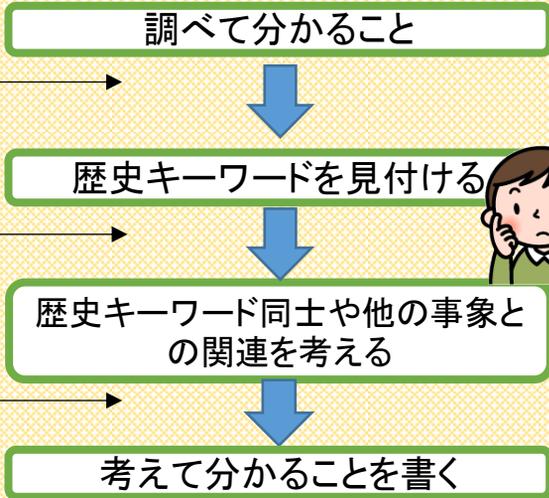
歴史キーワードを見付け、考える→歴史的事象の特徴を捉える

ノートをパターン化→見通し・効率化

追究する



比較・関連・総合



時空をこえた手紙を書く → 歴史的事象の意味を考える

考え・まとめる



知識の再構成

政治面での変化

江戸時代との比較

人々の考え方の変化

貿易を通じた変化

現代とのつながり

○成果と●課題

○歴史的事象について様々な視点から捉えた事実に基づいて児童なりの価値判断をすることで、歴史的事象の意味を考えることができた。

●一度だけの価値判断で終わらないよう、授業後も情報を提供し、さらに違う面から捉えられるようにしていく。

提言

小学校6学年の歴史学習において歴史的事象の意味を考える力を育てるために、歴史的事象の特徴を考えて捉え児童なりの価値判断をする活動を取り入れましょう。